

## 東京国立近代美術館フィルムセンターにおけるアーカイブ事業への取り組み

平成 25 年 11 月 27 日

東京国立近代美術館フィルムセンター主任研究員／映画室長 とちぎあきら（棚木 章）作成

## ① フィルム・アーカイブの必要性とその仕事

1. 映画は 20 世紀最大のグローバルな表現形式・メディアであり、以下の価値を有する。
  - ・人間の情理を表現する文化的・芸術的な価値
  - ・文字に還元できない大量の情報量を有した歴史資料としての価値
2. 上記の価値を後世に伝えていくためには、以下の取り組みが必要となる。
  - ・残存するフィルムを網羅的に収集することを原則に、廃棄・散逸・劣化の危機にあるフィルム、希少性が高いフィルム、利活用に必要なフィルム等の収集を優先的に行い、安全な環境において保護し、長期保管する。
  - ・作者の意図を十全に伝え、豊かな情報量を欠損させないために、必要に応じて、最善の複製物を作成する。
  - ・映画に関連する諸資料を収集し、所蔵品に関する情報を集積する。
  - ・フィルム及び資料の収集・保存の成果を広く還元するため、上映・公開・展示・所蔵品アクセスへ対応等を行う。

## ② フィルムセンターにおける取組状況

1. 映画フィルムの収集、上映、関連資料の展示（平成 24 年度実績）

映画フィルム所蔵本数（平成 24 年度末現在）67,287 本（日本映画：外国映画＝87：13）

映画関連資料収集本数：2,784 点（24 件）

上映会入場者数：89,905 人、展覧会入場者数：15,612 人

## ●独立行政法人化以後の所蔵本数、上映会及び展覧会の入場者数の推移

		日本映画	外国映画	計	累計
平成12年度末所蔵本数		20,646	6,508	27,154	27,154
収集本数	平成13年度	741	325	1,066	28,220
	平成14年度	6,175	169	6,344	34,564
	平成15年度	1,641	303	1,944	36,508
	平成16年度	7,896	46	7,942	44,450
	平成17年度	1,812	196	2,008	46,458
	平成18年度	1,921	96	2,017	48,475
	平成19年度	2,850	269	3,119	51,594
	平成20年度	7,979	67	8,046	59,640
	平成21年度	2,496	346	2,842	62,482
	平成22年度	1,247	18	1,265	63,747
	平成23年度	1,760	10	1,770	65,517
	平成24年度	1,631	139	1,770	67,287
合計		58,795	8,492		67,287

## 資料 7

期	年度 (平成)		内訳 1 (上映・展覧会別)		内訳 2 (有料無料別)				内訳 3 (高校・大学生, 小・中学生入館者数)			
			上映会	展覧会	上映会		展覧会		上映会		展覧会	
					有料	無料	有料	無料	高校・ 大学生	小・ 中 学 生	高校・ 大学生	小・ 中 学 生
1	H13 年度	105,513	99,886	5,627	96,764	3,122	0	5,627	6,521	33	524	17
	H14 年度	84,379	78,568	5,811	73,236	5,332	2,628	3,183	6,428	546	440	93
	H15 年度	110,809	100,010	10,799	93,798	6,212	9,697	1,102	6,918	41	711	186
	H16 年度	103,754	90,865	12,889	83,630	7,235	10,238	2,651	6,408	165	1,166	509
	H17 年度	138,787	128,365	10,422	117,366	10,999	8,368	2,054	7,009	43	887	277
2	H18 年度	134,069	124,775	9,294	112,600	12,175	7,418	1,876	7,579	51	680	287
	H19 年度	142,256	127,542	14,714	113,113	14,429	12,226	2,488	8,055	32	794	83
	H20 年度	132,017	118,111	13,906	102,618	15,493	11,709	2,197	6,482	214	1,267	263
	H21 年度	129,195	113,677	15,518	97,516	16,161	12,330	3,188	5,511	64	1,208	207
	H22 年度	122,650	109,098	13,552	95,570	13,528	11,231	2,321	7,110	78	1,001	319
3	H23 年度	122,464	105,163	17,301	89,867	15,296	14,943	2,358	4,254	46	1,609	197
	H24 年度	105,517	89,905	15,612	75,476	14,429	13,468	2,144	3,958	37	1,279	209

第 1 期平均	108,648	99,539	9,110	92,959	6,580	6,186	2,923	6,657	166	746	216
第 2 期平均	132,037	118,641	13,397	104,283	14,357	10,983	2,414	6,947	88	990	232
第 3 期平均	113,991	97,534	16,457	82,672	14,863	14,206	2,251	4,106	42	1,444	203

### 2. 所蔵品の館外利用及びアクセス対応 (平成 24 年度実績)

- ・ 優秀映画観賞推進事業 (文化庁及び各教育委員会等との共催) :  
     全国 189 会場、入場者数 79,354 人
- ・ 映画フィルムの貸与 : 104 件、313 本
- ・ 映画フィルム等の複製利用 : 37 件、426 本
- ・ 特別映写観覧 (調査研究等を目的とした試写) : 83 件、288 本
- ・ 映画関連資料の貸与 : 4 件、39 点
- ・ 特別観覧 (関連資料の複製等) : 20 件、943 点

・冊子等の複写：5件、14点、1,136頁

### ③ フィルム・アーカイブへのデジタル技術の応用

1. 利便性の高いデジタルメディアへの変換（主にデジタルベータカムへの複製）

・現時点で、3,163本について変換（所蔵総本数の4.7%）

2. デジタル技術を用いた映画フィルムの修復

・平成15年度に実施した『斬人斬馬剣』（1929年、伊藤大輔監督）の復元以来、今年度まで25作品について、フル・デジタル修復を実施予定（例：『瀧の白糸』（1933年、溝口健二監督）、『羅生門』（1950年、黒澤明監督）、『地獄門』（1953年、衣笠貞之助監督）、『幕末太陽傳』（1957年、川島雄三監督）、『くももちゅうりっぷ』（1943年、政岡憲三監督）、小津安二郎監督カラー4作品）

・平成17年度より、デジタル技術による音声上のノイズリダクションを実施。

3. 利活用に欠かせない所蔵品データベースの充実

### ④ 映画フィルム等の保存に係る今後の課題

1. 未だ廃棄や劣化の危機にある大量の映画フィルムを、継続的に収集し、保護および複製物の作成を図る。映画関連資料も、同様の理由から、収集を充実させる。

2. デジタル記録媒体の長期保存に向けて、撮影・編集・上映の各工程を通して使用されるメディア規格、ファイル形式、関連するソフトウェアなどの情報を広範に収集し、読み出し可能な状態にするための定期的な変換に必要な体制の検討を行う。